

2013年7月

軽井沢研修レポート

根本幸治先生

イメージ

「イメージ」根本先生は、私たちにこの大切さを講義していただきました。講義では「高校野球」「海外から見た日本」「現在の国際」のお話を聞き、その後は「鉄の棒」でイメージの大切さを実体験しました。

「高校野球」

北海道の高校野球部が甲子園で優勝するまでの話です。

野球部員たちは甲子園を夢みるも冬は雪が降る北海道では練習量が足りず無理だと言われていました。監督は心理学者に頼むことにしました。

まずは部員たちに「あなたたちの夢は何ですか」と質問し部員たちは「甲子園で優勝すること」と答えました。そしてその絵を書かせました。しかし部員たちの絵は纏りのないものでした。

心理学者は「みんなのイメージがバラバラなのに甲子園で優勝できるのか」と問いました。部員たちはその話を聞きみんなで一枚の絵を書き上げました。その絵は甲子園のマウンドで手を挙げみんなで一番をしている絵でした。

その絵を書き上げ部員たちはその絵を実現するにはどうしたらよいか考えそれを実行していきました。

それにより北海道の高校野球部は甲子園で優勝することが出来ました。

「海外から見た日本」

海外の人たちは「神風」「侍」「尊敬」のイメージがあるそうです。

しかし現代の若者には祖国が追い詰められても自分の命で特攻をかけることも自分がミスした時に切腹することも年配の方々のように尊敬される偉業もありません。

そんな私たちでも海外の方たちは昔の日本のイメージが残りそれが架空の日本人像を作っているそうです。

「現在の国際」

中華人民共和国の国家主席とアメリカの大統領がお話した内容について聞きました。

国家主席はまず「中華人民共和国とアメリカで太平洋を境に分けませんか」と言いました。

大統領はその話を否定しました。しかしもう中華人民共和国のイメージ戦略が始まっていました。

その後竹島の話になり竹島は何処の領土か質問したそうです。大統領は「日本の領土」

と答えたそうです。言葉だけを聞くと大統領は竹島が日本の領土と肯定しただけに思えます。しかしこの言葉にはアメリカは関与せず戦争が起きても軍隊を出さないという意味もむくませています。

それが全世界に広まり中華人民共和国は戦争しても竹島を領土にすることを知らしめ、最初に質問した太平洋を境に領土を分ける話も少しずつ浸透していきます。

中華人民共和国はイメージを世界に広げそれをだんだん現実に近づけていくそんな戦略が刻々と迫って来ています。イメージは少しずつ私たちの意識を変えていくのです。

「鉄の棒」

私たちの脳はイメージに近づこうとするそうです。

それを実体験するのが鉄の棒です。

鉄の棒は腕が鉄になったとイメージしそれをまげてもらい曲がらないことの実体験です。腕の力を抜いているはずなのに腕を鉄の棒とイメージするだけで本当に曲がらなくなるのです。イメージしないと力を入れても、曲げる相手のひじを下に下げれば簡単に曲がるのにイメージをするだけで曲がらなくなるのです。

私はこの講義でイメージの可能性を学びました。

私たちの可能性を広げ意識を意図的に変える「イメージ」私は今後もっと知っていかなくてはいけないと思いました。知ることによりイメージした自分に近づき成長を促してくれると思います。

織田善行先生

夢と希望

「夢と希望と目標そして見出す」織田善行先生は私たちに見出すことを教えていただきました。

「夢と希望の違いそして目標」

夢は潜在意識であり現実できるかわからないものでその夢が現実味をおびてきたとき希望になる。希望が生まれたときに目標ができる。そうして夢が実現されていきます。

「夢の現実化」

必要な条件は「思い」「何か」「実現する」「行動」この4つが1つでも損なうと実現できない。

たったの4つしかしこれを実行していくのは大変なことです。

夢を現実にするのには途方もなく大変だということです。

「目標」

私たちは自己イメージ（自分が現実的に実行できるゾーン）があり目標を立てるときには、認知的協和（現在でも実現できる目標）に立てる。しかし現在では達成できないところに目標を立てないといけない場合はもっとも簡単な対処法はできない理由を探すことです。

難しいことは自己イメージを修正することです。私たちは簡単な方を選んでいくと停滞していきます。

しかし自分を変えるということはストレスがかかりそれを乗り越えていかないといいけないのです。

そうしなければ私たちは時代の流れに取り残されていくことになってしまいます。

「見出す」

私たちは生きていくためには働かなければなりません。

そして夢を現実にしてその職業に就くことができるのはほんの一欠けらの人だけです。

そんな中で私たちは何かを見出していかないと現在の社会では生きていけません。

楽しさ、やりがい、何かを見つけ出しそれを育てていかななくてはいいけないのです。

私たちが生きている時代はなんでもありますが希望がありません。

希望は生きていくには必要でそれ以外があってもだめなのかもしれません。夢を実現できないからといって停滞せず出来たことに希望を見出すことが現代を生きていくことに大切なことなのかもしれないと思いました。